

# 今、いちばん気になる統計は？

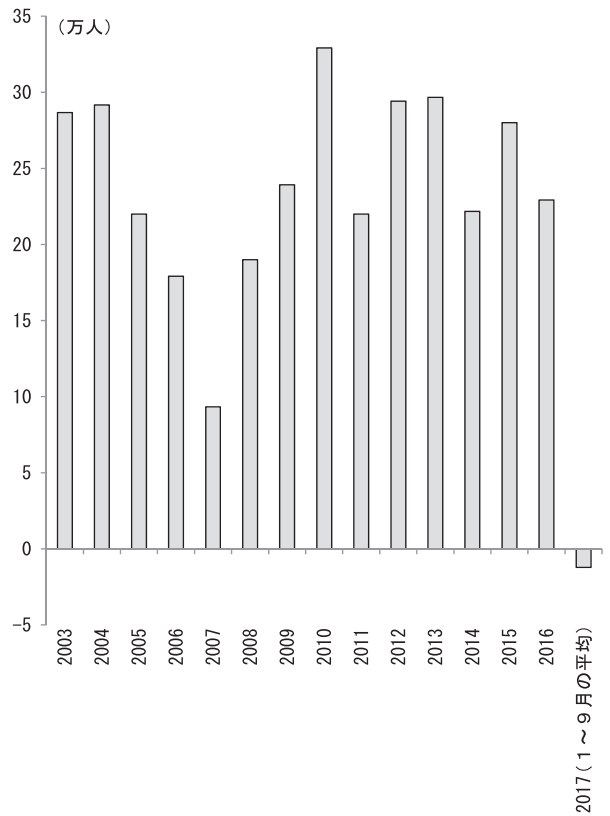
## 「医療・福祉」の従業者数が減少？

雇用が着実に増加している。2016年の就業者数は前年から+64万人増加、17年も同程度のペースで増加している。そうした中で、変調がみられるのが「医療・福祉業」に従事する就業者数だ。高齢化の中で雇用拡大の中心となってきたが、2017年1～9月は前年同期から減少している。

理由として考えられるのが、他産業における賃金上昇だ。医療・福祉業は小売業や飲食業との労働移動が比較的多いが、これらの産業は人手不足度合いが高まる中で賃金上昇が進んだ。しかし、医療や介護のサービス価格に相当する診療報酬・介護報酬は公定であり、医療・福祉の事業者は簡単に値上げや従業員の賃金引き上げを行うことができない。他産業との賃金格差が広がれば、雇用は高賃金の産業へ流れやすくなる。

今後も、高齢化の進行とともに医療・福祉業に対するニーズは一層高まるだろう。人手不足時代の中で医療・福祉業をどうしていくのか、抜本的な対策が必要な時期に来ている。 (経済調査部 星野 卓也)

資料 医療・福祉業に従事する就業者数(前年との差)



(出所)総務省「労働力調査」

## 編集後記

2017年も残り1ヶ月ほどになった。「まさか」が連続した2016年に続いて騒がしい1年になるかと思われたが、金融市場だけ見ると以外にもボラティリティーの小さい落ち着いた動きの1年だったと言えるかもしれない。一時地政学リスクの高まりに身構えることもあったもののリスクオフが長続きすることはなかった。確かに2016年に較べるとサプライズと呼ばれるような出来事は少なかったと思う。金融政策への信頼感が高く、企業業績好調とくれば低金利、株高、為替安定はある意味当たり前なのかもしれない。

しかし格差の問題が騒がれ社会の分断、インバランスが拡大しているといわれる中でこの金融市場の安定感は何だろう。市場に近いところで長く仕事をしているとボラティリティーを持ってそれなりに上下に動くことが当たり前で、逆に急に安定していると不安になってくるようなところがある。87年のブラックマンデー、97年のアジア通貨危機、07年のサブプライムショックと7のつく年には大きな市場ショックが起きてきた。二度あることは三度あったわけだが、三度あったことは四度あるとは言わないので何もないのが当たり前なのかもしれない。

2008年のリーマンショックは100年に一度と言われる歴史に残る大きなショックだったわけでそこで古い時代は終わったということであれば2017年に何も起きなくてもこれまた当たり前と言えるだろう。そもそも金融市場を揺るがすほどの歪みがあるとも思えないし…やはり三度あっても四度はないのかも。(H.S)

○第一生命経済研レポートに関するご意見・ご要望は、keizai@dlri.dai-ichi-life.co.jpまでお寄せ下さい。

○本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。